

# 船舶事故調査報告書

令和元年5月22日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成30年11月25日 07時45分ごろ
発生場所	広島県広島市 <sup>にの</sup> 似島北方沖 宇品 <sup>うじな</sup> 灯台から真方位236° 1.1海里付近 (概位 北緯34° 19.8′ 東経132° 26.6′)
事故の概要	遊漁船第二ひろみ丸は、南南東進中、また、プレジャーボート <sup>ハッチン</sup> HacchinⅢは、西進中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成30年12月5日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 遊漁船 第二ひろみ丸、3.3トン HS3-23559（漁船登録番号）、個人所有 第270-30491号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート HacchinⅢ、3.2トン 270-45591広島、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷船尾部外板に破損 B 右舷船首部外板に破口
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、南南東進中、船長Aが、左舷方にB船を目視で認めた際、A船が保持船なので、B船がA船を避けると思い、汽笛の吹鳴等を行わずに同じ針路及び速力で航行を続け、B船が左舷方約50mまで接近したので危険を感じて増速したが、B船と衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、西進中、船長Bが、操舵室右舷側前面にある幅約20cmの窓枠により生じた死角にA船が入っていたので、A船を右舷船首方約50m付近に初めて視認し、主機を中立運転に続き、後進一杯としたが、A船と衝突した。
分析	A 船は、南南東進中、船長Aが、B船がA船を避けると思い、同じ針路及び速力で航行を続けたことから、B船と衝突したものと考えられる。 B 船は、西進中、船長Bが、窓枠により生じた死角にA船が入った状態で航行を続けたことから、A船に気付くのが遅れ、A船と衝突したものと考えられる。

原因	<p>本事故は、A 船が南南東進中、B 船が西進中、船長 A が、B 船が A 船を避けると思い、同じ針路及び速力で航行を続け、また、船長 B が、窓枠により生じた死角に A 船が入った状態で航行を続けたため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自船の左舷方から接近してくる船舶を認めた際、予断を持たず、相手船の意図又は動作が不明な場合には、速やかに汽笛の吹鳴等を実施したのち、相手船との衝突を避ける措置を採ること。</li> <li>・ 航行中は、窓枠等により生じる死角に対し、船首を振ったり、身体を移動させたりするなどして常時適切な見張りを行うこと。</li> </ul>